

実践提案
<提言1から>

■学ぶ楽しさを実感させる■

【事例1～学習の目標を明らかにし、見通しを立てることができる学習活動を位置付けます。】

空知管内由仁町立三川中学校（中規模）

単元のはじめの時間に、「学習CM」として、学習の目標や内容を伝え、生徒一人一人が、自分の学習の見通しをもつことができるようにします。

【指導計画】	
時	学習内容
1	□オリエンテーション ・目標の理解 ・学習計画作り
2	□方程式とその解
3	□等式の性質

数学科 学習CM
第1学年 ～第3章 方程式～ (教科書P72～93)

学習の目標

- ★ 方程式とその解の意味を理解することができる。
- ★ 等式の性質を理解し、等式の性質を使って方程式を解ける。
- ★ 移項の考えなどを使って、いろいろな問題を解決することができる。

学習の内容

節	学習内容	単元	到達目標	自己評価
1 方程式とその解き方	1 方程式とその解	1	・方程式の意味を知る。 ・方程式の解、解くこと	生徒が自らの学習を振り返り、自分の学習状況に応じた問題を選び、見通しを立てて取り組むことができるようにしています。
	2 等式の性質	1	・等式の性質を調べる。 ・等式の性質を使って方	
	3 方程式の解き方	3	⑥ ⑦ ⑧ ・等式の性質を使って方 ・移項の意味を知り、そ 解く。	
	4 いろいろな方程式の解き方	3	⑨ ⑩ ・()のある方程式を解く。 ・小数係数をもつ方程式を解く。 ・分数係数をもつ方程式を解く。 ・1次方程式の意味を知り、その解き方をまとめる。	

章の問題	・3章のまとめと復習（提出）
------	----------------

<問> テストで、Aさんは、x点、Bさんは64点だったので、平均点は60点になった。等式で表しなさい。また、Aさんの点数を求めなさい。

<評価方法>

関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
授業態度（観察） 発表、発言 定期テスト	授業観察 定期テスト 豆テスト⑪	豆テスト⑧ 豆テスト⑨ 豆テスト⑩ 定期テスト	定期テスト 豆テスト⑥ 豆テスト⑦

章のまとめの問題例を示し、学習した後に、どのような力が身に付いていけばよいのかを明らかにしています。

◆◆ 取組の特徴 ◆◆

本実践は、生徒が、自分なりの学習の見通しを立てることができるよう、学習の目標や内容や学習の流れ等を紹介する工夫をしています。また、まとめの問題例や評価の方法を明らかにして、どのような力が身に付くとよいのかをわかりやすく示しています。

【事例2～毎朝の短い時間で繰り返しの学習や読書ができるようにします。】

～朝の学習の機会を確保する～

釧路管内弟子屈町立川湯中学校（中規模）、
渡島管内函館市立的場中学校（大規模）

＜継続した取組＞

- ・「コツコツタイム（朝学習）」
- ・「百番勝負（百問テスト）」

具体的に学び方を身に付け、家庭学習も含めた望ましい学習習慣を確立するために、継続して家庭との連携を図る。

授業改善に結びつくよう、個人カルテを焦点化し、日常的な活用を促す。

毎日、朝の短い時間を活用して行う学習活動と、継続して取り組む学習活動の役割を明確にし、バランスよく指導計画を立てます。

＜新しい取組＞

第1学年で、学力調査（CRT学力検査）を実施し、知能検査との相関等、3年間の基準となる基礎資料を明らかにする。

すべての学年で「自己向上支援検査（SET）」を実施し、CRTとの相関関係から学習意欲にかかわる生徒一人一人の課題を把握する。

◇ 全校体制での「朝読書」の取組

【ねらい】

- ・毎日の読書により、読解力を養う。（読む力はすべての基本的能力）
- ・朝読書をすることにより、落ち着いた環境・気持ちで一日をスタートさせる
- ・読書をとおして「豊かな心」を育てる。
- ・生徒とのコミュニケーションづくりに役立てる。

学級全体で取り組むことにより、生徒の間に一体感が生まれ、学ぶことの意義や楽しさを全員で実感できるようになります。

【基本的な考え方】

- ・みんなで行う。
（生徒と教師全員が、同じ時間に同じ条件で取り組む。）
- ・毎日行う。
（一日10分でも、毎日行うことにより、生徒の読む力を育てる。）
- ・好きな本を読む。
（読む本を生徒自身が選ぶことにより、自己の発見や主体性の育成につながる。）
- ・ただ読むだけ。
（感想文や記録を求めない。本を読む楽しい思いや充実感を大切にする。）

【方法】

- ・月曜日～金曜日 8：15～8：25（10分間）
- ・生徒は、読みたい本を自分で用意し、学級の自分の席で黙読する。

【活性化を図るため】

- ・学年ごとに、朝読書担当者を置く。
- ・学年担当者と文化部（図書担当）との連携を図る。

◆◆ 取組の特徴 ◆◆

本実践は、毎日の朝の時間に、生徒の学習のつまずきに応じたきめ細かな指導を行ったり、学習したことを活用して発展的な問題に挑戦したりすることができるよう工夫しています。また、生徒と教師が一体となって朝読書を行うことにより、学習に適した環境を創り出し、学ぶ喜びを実感することができる工夫をしています。

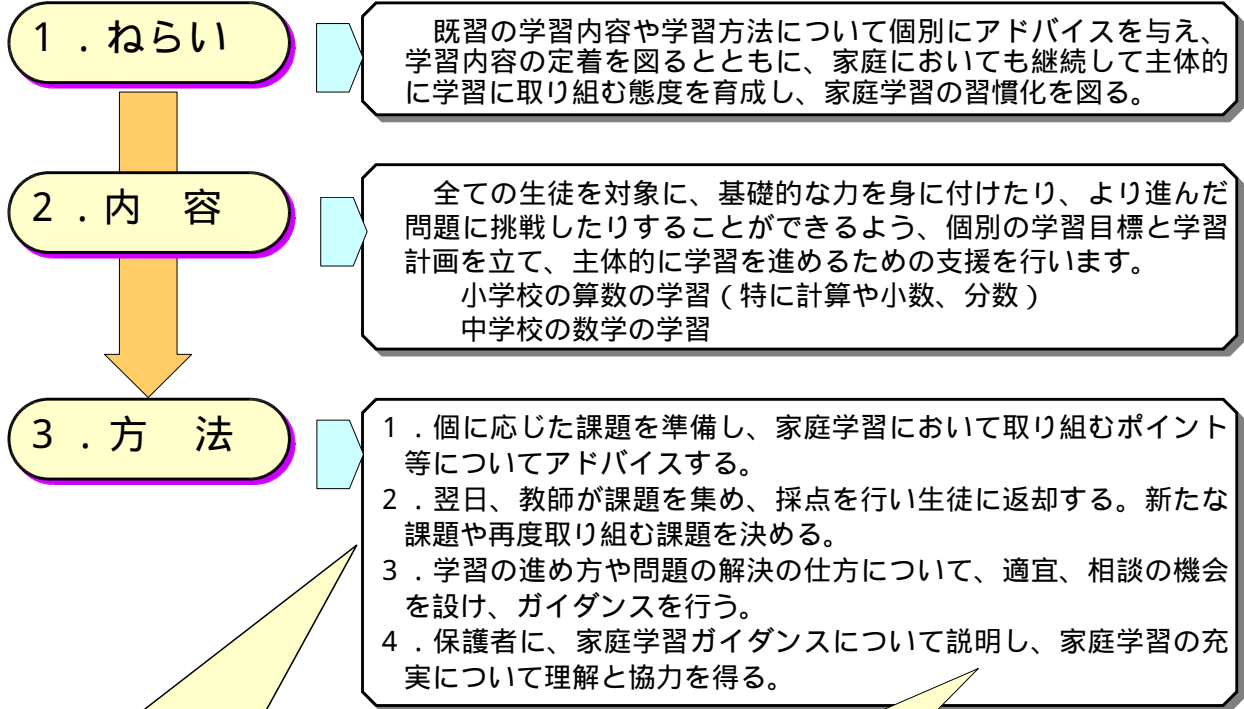
実践提案
< 提言2から >

授業以外の学習の機会や時間を確保する

【事例3～学習内容の定着を図り、家庭学習の習慣化を促す学習ガイダンスを行います。】

「家庭学習ガイダンス」の取組

十勝管内幕別町立札内中学校（中規模）



生徒が自らの学習状況に応じて学習に取り組めるよう、課題を準備します。

ミニテスト 四則 - 3
 $92 + 18 \times 6 =$

ミニテスト 文章問題 - 7
1月は31日まであります。これは、何週間と何日ですか。

式

仕上げの問題A

100から200までの整数の中で、4でわると2あまり、7で割ると5あまる整数すべてを求めましょう。

式

答 _____

毎分5ℓの割合で、水のわき出る井戸があります。今、毎分25ℓくみ上げるポンプを使って水をくみ出すと10分で水がなくなります。毎分30ℓくみ上げるポンプを使うと、何分で水がなくなりますか。

式

答 _____

保護者の理解を求めます。

保護者 各位
家庭学習ガイダンスのご案内

学校では、全ての生徒に確かな学力を身に付けるために、授業の工夫改善に努力しておりますが、確かな学力を身に付けさせるためには、授業と家庭学習の両方の充実が欠かせません。

本校では、家庭学習の習慣を確立するとともに、算数・数学の基礎を習得させるために、希望者を対象に「家庭学習ガイダンス」を次のように開催いたします。ぜひ、御活用ください。

記

1. ねらい 学習内容の定着及び家庭学習の習慣の確立を図る。
2. 日 時 月～金の放課後 部活動開始前20～30分
3. 場 所 会議室
4. 内 容 学習の進め方、学習方法についての相談 など

取組の特徴

本実践は、個に応じた学習を展開し、生徒一人一人が自らの学習状況や理解の程度を把握し、主体的に学習を進めることができるよう工夫しています。また、家庭に、学習の進め方等について紹介し、保護者の理解を求め、生徒が自信をもって学習に取り組むことができる工夫をしています。

実践提案 ＜提言2から＞

■授業以外の学習の機会や時間を確保する■

【事例4～家庭学習の状況等を記録する「家庭学習シート」を活用して、自らの取組を把握します。】

留萌管内小平町立小平小学校（中規模）

10月21日 家庭学習シート

今日の連絡

・テストの間違ったところをしっかり見直す。

<〇〇〇メニュー>

- ① 学校の宿題
- ② テストの間違い直し
- ③ 日記
- ④ 読書
- ⑤ 10行読書感想文
- ⑥ その他（話題のニュース、視写10行、都道府県名など）

<〇〇〇メニュー>

- ① 今日の授業の復習（国語）
- ② 今日の授業の復習（算数）
- ③ 明日の授業の予習（国語）
- ④ 明日の授業の予習（算数）
- ⑤ 漢字練習（〇問）
- ⑥ 計算練習（〇問）
- ⑦ 家で使っている問題集

<今日の学習について> ……学習した内容や学習したことの感想をかきましょう。

テストで間違えたところは、ちょうど授業の復習に関係のある内容だったので、自分で調べて勉強しました。

また、毎日、計算練習を集中的に行ってきたので、問題を短い時間のうちに解くことができるようになってきて、勉強に自信ができました。

これからも計画的に勉強します。

家庭学習ファイル

◇家庭学習5つの約束◇

毎日やりましょう。（特別な事情〈旅行や体調が悪いときなど〉がある場合は除く。）

ノートの上に日付、開始時刻、終了時刻を書きましょう。

左のメニューから一つ以上、右のメニューから一つ以上選びましょう。

「今日の学習について」の欄に、

- ・今日、学習した内容
 - ・学習を終えての感想などを書きましょう。
- 学習が終わったら、家の人に見てもらいましょう。

◆◆ 取組の特徴 ◆◆

本実践は、児童が、家庭学習を自分から進んで行うことができるよう、メニュー形式で取り組むことができる工夫をしています。また、学校の学習と家庭の学習の関連付けを行い、継続して学習を進めることができるよう工夫しています。

柱 2

基礎・基本を確実に習得する

～新たに分かったことや使うことができるようになった知識・技能を剥落しないよう確実に身に付けさせる～

柱2にかかわっては、児童生徒が知識・技能を確実に身に付けたり、身に付けた知識等を確かめたりすることができるよう学習活動や指導計画などの工夫を図っていく必要があります。特に、一人一人の学習状況を的確に捉えて、繰り返し指導を行ったり、発展的な学習を取り入れたりすることが重要です。

【提言1】

■子どものつまずきを
フォローする■

【提言2】

■学習と日常生活の
つながりを意識する■

◆国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているかどうかの違いから見た平均正答率(詳細:P138 参照)

調査結果

	% () 内はH19			
【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a 当てはまる	68.1	71.9	54.4	53.8
b 当てはまらない	47.8	56.0	31.9	36.3
a-b	20.3	15.9	22.5	17.5
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a 当てはまる	77.6	66.3	66.7	52.1
b 当てはまらない	66.6	52.4	49.6	37.7
a-b	11.0	13.9	17.1	14.4

【参考】

◆ 算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるかどうかの違いから見た平均正答率においても、考える児童生徒と考えない児童生徒の平均正答率の差が大きい傾向にあります。(詳細:P138参照)

傾向と考察

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているかどうかの違いから見ると、当てはまると回答した児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。例えば、小学校においては、当てはまると回答した児童と、当てはまらないと回答した児童の平均正答率がすべての教科において15ポイント以上の差があるなどの違いが見られる。

目的に応じて資料を読んだり、自分の考えを表す学習活動を行うなど、学習状況に応じた指導の工夫を図る必要がある。

◆児童生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導を行っているかどうかの違いから見た平均正答率(詳細:P154 参照)

調査結果

	% () 内はH19			
【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a よく行った	62.3	68.3	48.0	49.4
b あまり行っていない	57.8	64.0	44.0	46.0
a-b	4.5	4.3	4.0	3.4
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a よく行った	73.3	61.8	60.0	47.8
b あまり行っていない	71.5	57.1	57.1	42.4
a-b	1.8	4.7	2.9	5.4

【参考】

◆ 国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つかどうかの違いから見た平均正答率においても、役に立つと思う児童生徒と思わない児童生徒の平均正答率の差が大きい傾向にあります。(詳細:P140参照)

傾向と考察

児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をよく行っている学校は、全く行っていない学校に比べて平均正答率が高い傾向が見られる。例えば、小学校では算数のA問題(知識)で、中学校では数学のA問題とB問題(活用)に差が表れている。

学ぶ楽しさや考える大切さなどを実感できる発問や学習活動の工夫を図る必要がある。